

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立津島中学校

1 自己評価書

教育目標	笑顔あふれる生徒の育成					
基本方針	校訓「友愛」「清廉」「飛躍」を大切にしながら、目指す生徒像・教職員像の育成を図る。また、学校運営協議会を生かした学校運営により、地域と共にある学校づくりを目指す。					
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と向上 2 生徒会活動の活性化と生徒指導の充実 3 部活動の充実 4 心を育てる教育の推進 5 キャリア教育の推進 6 教職員の資質・能力の向上					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	D	C
				・具体的な対策の実施	C	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	D	D
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	D	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	C	
(成果と課題)						
前期と同様に、一人1台端末やEILSの活用が積極的に行われており、ねらいを明確にした工夫のある授業が展開されている。しかし、読書活動と家庭学習については、学級文庫や委員会活動、自主学習ノート等の効果が現れていない。また、年間を通したボランティア活動が学校全体としての広がりとなっているが、地域への愛着を十分に醸成できていない。						
(改善策等)						
全国学力・学習状況調査の分析結果を基にした学習目標の明確化を図り、具体的な対策を行うことによって授業改善を進める。家庭学習については、各学年に応じた目標を検討し、学校としての取組として各教科で推進する。ふるさと学習については、持続可能な地域貢献活動を展開しながら、3年間を見通した地域への誇りの育成に努める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
			自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート	A	
				・教師アンケート	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	C	B
・教師アンケート				B		
(成果と課題)						
生徒と教職員の人間関係が良好であり、教育相談等を適切に行うことによって、安心・安全な学校生活を実感できている生徒は多い。また、スクールカウンセラー等と連携し、心を許して相談できる体制を構築することができている。しかし、集団の中での所属感や自己有用感が低い生徒もあり、教育活動を工夫しながら人間関係づくりを進める必要がある。						
(改善策等)						
個だけでなく、集団としての規範意識の低下を防ぐために生徒観察をより丁寧に行い、問題行動の早期対応と規範意識を高めるための共通理解・共通実践を行う。また、学級や学年の中で生徒に対する具体的なプラスの声掛けを行うとともに、協力型の学習活動等を工夫しながら自己肯定感や自己有用感を育成する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退席調査」の分析と活用	D B	C
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	B	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C
	（成果と課題） 学年部を中心に学級担任を支え合えるサポート体制ができており、働きやすく、必要な休暇が取得しやすい職場となっている。また、部活動指導員により部活動の負担軽減につながっている。しかし、学校行事等の運営については、スクールサポートスタッフや地域協働活動支援員による協力体制は充実しているものの、教職員への負担が過多となっている。 （改善策等） 各業務への個人負担や偏りを見通して早期に業務分担の再構築を図るとともに、校内での業務改善の具体的目標を設定し、組織で働き方改革を推進する。また、AIを活用した業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮を行う。さらに、管理職を中心に教職員間での積極的な声掛けを行い、メンタルヘルス不調に早期に気付くことができる職場づくりを行う。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
（成果と課題） 地域貢献活動（つしまルシェ）を中心とした熟議を行うことによって、熟議の方向性が明確化し、学校運営協議会の活性化を図ることができた。また、学校運営協議会や地域の力が学校運営に生かされていることが実感できた。教育活動の情報発信は、前期と同様に保護者、地域共に評価が高い。しかし、来校し、相談しやすい体制づくりは十分とはいえない。 （改善策等） 熟議を核として学校運営協議会を活性化することによって、生徒、教職員が地域の力を実感し、互いの思いを共有することができる運営に努める。また、生徒が生き生きと活動している姿を学校だよりやホームページで発信し、保護者や地域の教育活動への協力体制を整える。学校行事の実施日を検討し、保護者や地域の方が来校しやすい学校づくりを行う。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満